

具体的内容に関する質問

(スケジュール)

Q 1 . 「まちづくりと一体となった具体的計画内容」をいつ公表するのか。またその計画確定後、工事着手、完成はいつになるのか。

【回答】

今後、まちづくり計画については、松江市が設置する「まちづくりに関する検討委員会（仮称）」等で地域の皆様のご意見を聞くなどした上で、「まちづくりと一体となった具体的計画内容」を策定することとしており、地域の皆様のご理解をいつまでに得るという期限を切るとは難しいと考えています。

ただし、環境調査を1年半から2年程度で行う予定であり、これと並行してまちづくり計画のとりまとめができれば、今後、2年程度で「まちづくりと一体となった具体的計画内容」の提示が可能と考えています。

その後、ご理解を得て用地取得や工事に着手することになりますが、可能な限り速やかな事業実施に最大限取り組んでまいります。

Q 2 . 工事の実施の順番は、下流から行うことになるのか。

【回答】

洪水時の宍道湖の水位を下げること（大橋川の流下能力を向上すること）と、宍道湖・大橋川の水位上昇に対して松江市街地の中心部を効率的に防御することの両面を考えて対応することになります。

特に、浸水が想定される区域の人口・資産が大きい上流部について、速やかな取り組みが必要と考えています。

Q 3 . 沿川の詳細な測量はいつから行うのか。

【回答】

測量については、「まちづくりと一体となった具体的計画内容」を検討するためにも地域の皆様の了解を得て、早期に着手したいと考えています。

(改修計画)

Q 4 . 具体的内容で示された河床の掘削高は、なぜ H.P. -3.5m なのか。

【回答】

現在の中海・宍道湖の汽水環境は、中海から大橋川の川底をはって遡上する濃い塩水が大橋川内にあるマウンドで抑制されることによりバランスを保っていると考えています。両湖の汽水環境の変化を小さくするため、このマウンドを保全することとし、-3.5m より浅いところを掘削する計画としています。

Q 5 . 大橋川にあるマウンドの土質は岩盤なのか、ヘドロなのか。マウンドの形は変化するのはではないか。

【回答】

下流部（塩楯島付近）には岩盤の部分もありますが、大橋川は全川にわたり粒子の細かい土質です。大橋川にあるマウンドも同様にヘドロや岩盤ではありませんが、昭和49年から平成13年までの観測の結果では、変化がほとんどないことが確認されています。

Q 6 . 今回の具体的内容で示された計画では、移転家屋数はどれくらいになるのか。

【回答】

今回お示した堤防法線の川側にある家屋等（約40戸）については移転の対象となりますが、最終的な移転家屋数が明らかになるのは、「まちづくりと一体となった具体的計画内容」が決定した段階となります。

Q 7 . 大橋川の堤防を高くすると、市街地から大橋川への排水が悪くなって、内水被害が増えるのではないか。

【回答】

斐伊川上流域に降った雨が宍道湖に流入して、宍道湖の水位が上がるまでには1日以上時間がかかります。このため、宍道湖、大橋川の水位が上がるまでは、市街地に降った雨は大橋川に排水が可能です。また、宍道湖の水位が高くなった場合は、堤防や逆流防止施設（ゲート、樋門）を閉めることなどで大橋川の氾濫水（外水）の侵入を防ぐことが可能ですので、堤防を高くすることが原因で浸水被害が増すことはありません。

Q 8 . 平常時の大橋川の姿はどうなるのか。河川敷があるのか。

【回答】

今回お示した具体的内容では、地域社会への影響を少なくする計画としていることから、斐伊川の下流のように河岸の河川敷（平常時水に浸からない場所）を確保することにはしていません。

Q 9 . 平常時の大橋川の水位は低くなるのか。

【回答】

平常時の大橋川の水位は、宍道湖・中海の平常時の水位が大橋川改修によって変わることはないため、ほとんど変わることはないと考えています。

Q10．大橋川を拡幅せずに河床の掘削と築堤を行った場合、宍道湖の水位はどうか。

【回答】

大橋川を拡幅せずに河床の掘削のみを-3.5mまで行った場合の数値シミュレーションでは、宍道湖湖心の洪水時のピーク水位がH.P.+2.67mと試算しています。

この場合、宍道湖の計画高水位であるH.P.+2.50mを超えるため、白潟地区や宍道湖西岸でこれまでに完成した湖岸堤の再整備が必要になります。

この場合でも、松江市街地の浸水被害の防止のためには、現在堤防のない大橋川の築堤や松江大橋、新大橋の架け替えは必要であり、拡幅と一体となって改修事業をすることが効果的です。

(景観・まちづくり)

Q11．今回の具体的内容で示された計画では、松江大橋と新大橋の架け替えや沿川のまちづくりによって、水都松江が全く違う景観になるように思われるが如何か。

【回答】

今回お示した大橋川は松江市街地の中心部を貫流しており、無堤部の築堤等が必要になりますが、沿川のまちづくりと調和した計画となるよう、堤防・護岸の形状、改修により架け替えとなる橋梁のデザイン等について、国際文化観光都市である松江市の景観にふさわしいものとなるよう、まちづくり検討委員会の設置やワークショップ等を通じて、地域の皆様のご意見を聞きながら検討を行っていきます。

Q12．まちづくりの協議の中で堤防の高さも決めていくのか。

【回答】

堤防の高さは、市街地等を浸水から守り、洪水を安全に流すために必要な高さですが、その高さの確保の方法や堤防、護岸の形状については、地域の皆様のご意見も聞きながら決めていきます。

Q13．今回、具体的内容の「大橋川周辺整備構想図(道路)」に示された道路は、どれくらいの幅員になるのか。

【回答】

道路の計画については、今回お示した具体的内容を踏まえて検討を進めています。今後、幅員についても地域の皆様のご意見を聞いて、決定したいと考えています。

Q14．大橋川内に係留している漁船はどうか。

【回答】

現在の係留状況を把握していませんので、今後調査を行い検討していきます。

Q15．漁業への影響が考えられる工事中の河川の濁りについてどう考えるのか。

【回答】

工事中の河川の濁りをゼロにするということは不可能ですが、工事の実施にあたっては、工事の実施方法について事前に関係機関に十分説明し、工事中の影響を少なくするための対策を講じていきます。

(支川について)

Q16．洪水時には天神川、京橋川や堀川の水位が上昇するが、どのような対策を考えているのか。

【回答】

治水対策として一番優先されるのは大橋川の氾濫（外水）に対する対策であり、堤防を築き拡幅や掘削を行うことが必要です。また、市街地から大橋川へ出る排水管等は、大橋川からの逆流が生じないように大橋川の築堤に併せて逆流防止施設（ゲート、樋門）を整備することになります。

また、天神川については、上下流端に水門を設置する予定です。

先ず、外水対策が優先されますが、天神川、京橋川や堀川の内水対策については、現在の実状を把握し、今後、大橋川改修に併せて検討を進めていきます。

Q17．朝酌川の計画はどうなっているのか。

【回答】

先ずは、大橋川の本川の計画について、提示させていただいた内容で理解してもらうことが先決です。朝酌川の計画については、大橋川本川の計画と整合を図りつつ早急に検討していきます。

Q18．S47洪水でも天神川沿川で浸水があったが、天神川の水門を閉めた場合の排水はどうするのか。

【回答】

大雨の際には、市内に降った雨が短時間で排水路を通じて天神川に入りますが、この時点では、宍道湖の水位はまだ上がっていないため、水門は開けたままであり、スムーズに排水することが可能です。

宍道湖の水位が上昇するには1日以上かかることから、その時点では、既に市街地からの排水はほとんど終了しており、大きな影響はないものと考えます。

Q19．過去には、天神川に内水排水のためにポンプの計画があると聞いたがどうか。

【回答】

ポンプについては、現在の実状を把握し、必要性について再検討を行います。

(上流部)

Q20．松江大橋、新大橋については、架け替えで現在の位置と変わるのか。

【回答】

現在の松江大橋、新大橋は、大橋川の拡幅により橋の長さが足りなくなることと、築堤に伴い橋梁の嵩上げが必要となることの2点から、架け替えが必要となります。現在の道路の機能を損なわないためには、大きく位置を変えることはできないと考えていますが、今後、まちづくり計画の中で検討していきます。

Q21．松江大橋、新大橋の架け替えの際に、アクセスする道路やその周辺の建物への影響はどうか。

【回答】

今回の具体的内容では、堤防の法線より内側（洪水の流れる器の部分）について提示しており、橋梁や周辺の道路については、詳細な設計がありません。
今後、沿川の詳細な測量を実施した上で、周辺への影響を明らかにしていきます。

(中流部)

Q22．剣先川は、なぜこの計画のように大幅に広くしなければならないのか。

【回答】

大橋川の上流から下流までの全体を通して、洪水を安全に流すこと、地域への社会的影響を小さくすること及び水環境に配慮し、検討した結果です。

中流部では、大橋川は川幅が一定で川筋も直線的でなめらかな線形になっており、河岸も安定していることから現状を重視した法線とします。剣先川については、川幅の狭い部分や川底の浅い部分があることから、洪水が安全に流れる断面を確保するため拡幅する必要があります。

Q23．中の島を全部撤去しないのはなぜか。（中の島を全部撤去すればよいのでないか。）

【回答】

今回お示した具体的内容では、治水と環境の両面に配慮した計画としています。S54年計画では、大橋川を拡幅し中の島の掘削土で剣先川を埋める計画でしたが、現在の川筋に沿った改修とすることで、中の島は現在の約1/3の面積になりますが、大橋川については中の島の水際のヨシ等の植物や生物の生息生育場の保全が可能となりました。

Q24．第五大橋の用地買収が始められようとしているが、第五大橋と大橋川改修の計画は整合しているのか。

【回答】

第五大橋の設計に当たっては、県と国が協議をして進めているものであり、双方の計画は整合するものとしています。

Q25 .(中流部(くにびき大橋から朝酌川合流点までの間)の)掘削土の搬出時における
工事車両の運搬路等はどう考えているのか。

【回答】

「まちづくりと一体となった具体的計画内容」が決定した後に、工事の影響を少なくするよう施工方法等について検討を行います。

(下流部)

Q26 . 塩楯島は洪水時の流れを悪くしているように思うが、撤去しないのか。

【回答】

塩楯島は、地域の歴史的財産でもある手間天神社もあることから、残すこととしていますが、周辺の-3.5mより浅いところは掘削し、洪水を安全に流す計画としています。

Q27 . 大橋川河口の堤防は、どういう条件で計画の堤防の高さを決めているのか。

【回答】

大橋川河口付近の堤防の高さは、大橋川の洪水を安全に流すために必要な高さのみならず、中海からの波浪等の影響を考慮した堤防の高さから決まっています。

Q28 . 大橋川河口部右岸では、夏場の大潮の時は排水路を逆流することがあるのは何故か。

【回答】

逆流の状況について、現在の実状を把握し、今後、大橋川改修に併せて検討を進めていきます。